

第6回砺波市立学校のあり方検討委員会 議事録（概要）

- 1 開催日時 令和4年2月7日（月）午前10時30分～午後0時10分
- 2 開催場所 砺波市役所 小ホール
- 3 出席委員の氏名（50音順 敬称略）
井上 五三男、金平 正、久保田 晃克、笹田 茂樹、高田 治生、樋掛 恵美、廣瀬 敬一、
藪 道子、吉田 快、吉田 直人
- 4 欠席委員の氏名（50音順 敬称略）
竹山 美紀、丹羽 範夫、藤井 法子
- 5 事務局の氏名
白江 勉（教育長）、構 富士雄（事務局長）、河合 実（教育総務課長）、
肥田 啓生（教育総務課主幹）、小谷内 智信（教育総務課主幹）、片山 智遥（教育総務課主事）

6 委員会次第

- | |
|--------------|
| 1 開会 |
| 2 委員長あいさつ |
| 3 議事 |
| (1) 適正規模について |
| (2) 適正配置について |
| 4 閉会 |

7 委員会の要旨

- | | |
|-----------|--|
| 委員長 | <委員長あいさつ>
お足元の悪い中お集まりいただきありがとうございます。本日は今までの視察やご意見をまとめていきたいと思えます。学校の適正規模・配置について検討していただき、次回7月に提言としてまとめていただきます。どうぞよろしく願いいたします。 |
| 事務局
議長 | <議事（1）適正規模について 説明>
今までの検討委員会をふまえ、望ましい学級数について小学校、中学校に分けてご意見をいただきたい。まず、小学校の望ましい学級数についてご意見をいただきたい。 |
| 委員 | これまで視察をしてきて、基本的に1学年に複数の学級があるのは大きなくくりとしてよいと感じた。ただし、地域的に過去から小さな学校でやってきていたり、通学距離が長くなると子供の足では通いきれないということもあたりするので、基本的に複数学級だが、地域的に1学級という学校があってもよいというのが私の意見である。
また、現在は子供の人数が30～35人という数字となっているが、もう少し少ない方がよいと感じる。お金の面もあると思うが、それを考慮せずに気持ちだけで考えると24～25人として、クラス替えもできるというのがよい。 |
| 委員 | 1学年2学級以上の方が活気があり、学べるものも多いので、2学級以上という意 |

見に賛成。地域の実情を考慮し、学校の配置をそのままにしておくと、子供が減っていくことを前提にすれば、いずれは複式学級になってしまうということも頭の中に入れておいて、合併という形も考えられるのではないかと思う。1学年2学級を目指し、再編を考えていくべき。

委員 1学年2～3学級が理想である。単級では、競争力の低下が一番懸念される。最終的な結論は統合ということになってくるだろうと思うが、統合しやすい地域としにくい地域が生まれてくる。出町小学校、砺波東部小学校、砺波北部小学校は住宅団地ができやすく子供が集まりやすい環境にあるが、庄南小学校、庄東小学校、鷹栖小学校、庄川小学校は子供を外から呼びにくい地域である。同じ市内でも格差が生まれるのが課題。

議長 富山市の検討委員会にも出席しているが、小学校と中学校は一緒には考えられないだろうという議論があった。小学校は地域の学校を残して欲しいという願いが強い地域が多い。複式学級になると難しい部分があるが、1学年1学級が維持できるならば、それも考慮に入れるべきではないかという意見があった。特に市街地から離れた地域では、そのような意見が強い。

1学年2学級以上というのが基本だが、地域の実情もあるので、1学年2学級以上が難しい地域もあるということは考慮しなければならないということで意見をまとめさせていただいてもよろしいか。

委員 複数学級が良いとは思いますが、1学級の人数の問題はあると思う。単級となる人数であっても、2学級に分けられないのかと考える。文科省が適正規模校というものをを出しているが、これはあくまで一つの例であって、地域によってはこの限りではないということだと思っている。小学校はなるべく学校を残した方がよいと考えており、単級となる人数であっても2学級にできないものか。

議長 小学校は35人学級が進められているが、それを超えると2学級になるというものであり、場合によっては1クラス18人で2学級ということになる。少人数でも2学級置くことは不可能ではない。ただし、国の基準より少ない人数で実施する場合には市が独自で教員を雇用しなければならないため、そういった面も併せて考えていかなければならない。

委員 山田村において、学校再編の話が出てきてから、合併しなければよかったという話があった。八尾まで1時間、雪が降ればさらに時間がかかり、大変な話だと感じている。

砺波市は小学校区が八つ、中学校区が四つあり、これまでうまく運用してきたが、今後も何とか残していきたい。合併や再編の話が出るが、それは非常に大変なことである。砺波型で何とか残していくという形のものを作っていただきたい。自治振興会協議会でも学校再編の話を地域に持って行ったとしても全く決まらないという話をしていたが、形に縛られると大変なことになる。決まった形のものでなくても、複数学級にならなくても、うまくやっていくことができるのではないか。

自分が小学生の時は、1学年20人いなかった。それでも仲が良く、今でも集まっている。このように地域のつながりというものもあるので、それも含めて検討しなければならない。人数が減ってもうまくやれるような形で進めていただきたい。

議長 基本1学年2学級以上だが、それにとらわれず地域の実情によっては1学級ということも考えていかなければならないということとする。

次に、小学校の望ましい学級人数についてご意見をいただきたい。国の方針では、1学級35人としているが、35人を適正とするのか、それ以下を適正とするのか。

- 委員 30人や35人というのは多すぎると思う。コロナ禍の状況からしても、現在の教室のスペースでは半分程度の人数しか入らないのではないかと。したがって、35人の半分を目処にするのがよいのではないかと考える。15～20人を上限として考えていくことが必要である。砺波型としてこのようなことが可能なのであれば、提案したい。
- 議長 砺波東部小学校の視察で、25人程度の学級を見て、この程度がちょうどいいのではないかと感じた。やはり35人は多いという感覚か。
- 委員 小学校と中学校は違うとあっていて、小学校は子供の学校であり、中学校は大人になるための学校である。当然、小学校でもある程度競争があっても良いが、少人数であっても競争は起こる部分はあるので、それよりも大人の目が届く人数が良い。具体的には20人弱が理想ではないか。
- ただし、人件費の問題があるので難しい。現在35人学級が進められているのは、40人学級から35人学級にしても、日本全体でそれほど学級数が増えないというのがわかっていてそうしている。
- 中学校はまた話が違って来るが、小学校は少なければ少ないほど良いのではないかと思う。
- 委員 実態として1学級10人台でも構わないが、2学級に分けたときにそうなるのが理想である。30人学級とした場合、30人であれば1学級で、31人になったときに15人の学級と16人の学級になる。25人学級とすると、最高で1学級25人で、26人になると1学級13人になる。25人学級の場合、1学級最低13人になり、団分けや教室運営がやりづらい部分が出てくる。上限数を減らせば減らすほど良いというわけではない。
- ただ、今後学びの質が変わり、欧米のように子供同士の話し合いが主体になる方向に進むと思われるので、今よりも人数は減らした方が良いと思う。
- 委員 学級の人数の計算方法に疑問がある。砺波型ということで色々と提案しているが、どのような基準に基づいて計算しているのか教えていただきたい。
- 教育総務課長 学級の人数は、小学校は1学級40人というのが基本だったが、国では35人学級を進めており、富山県では更に先行して進めている。令和5年からは6年生まで35人が上限となり、36人になると2学級に分かれるという考え方である。
- 複式学級は、富山県の基準によると小学校では2学年で15人以下になると2学年で1学級となるもの（1年生を含む場合は、2学年で8人以下）。
- 議長 国の算定方法と全く違うものにするのは難しい。
- 委員 昔は一人の先生が1限目から6限目まで出ていたが、現在はそういったことはできないのか。
- 教育長 小学校専科という形で、教科によって色々な先生に見てもらった方が良いということで実施している。一人で1限目から6限目まで見ることはできるが、あえて複数の先生で見ている。
- 委員 小学校は地域と関わる学習があるが、そういった場合も1学級の人数が少ない方が一人一人に伝わりやすい。伝える側にとっても、指導方法等にメリットが生まれてくると思う。そのため、人数は多いよりも少ない方が良く、具体的には15～20人程度の規模が良い。
- 委員 皆さんの話にあるように、多すぎるの良くない。国の基準の35人を適正とするというのは、小学校の場合は多いと感じる。24～25人が良い。15人程度が良いのではないかという話があったが、上限を15人とすると16人になった場合に8

- 人の学級が二つできることになるため、上限15人とするのは厳しいのではないか。このようなことを考えると、小学校は30人以上は多く、砺波市としては二十数人とできるように、最大30人という規模で進めていけば良いと感じる。
- 委員 少子化の中で、地域の実情を考えると、1学級十数人になっても維持できるのが理想ではないか。
- 委員 児童数の多い学校と少ない学校で考え方が変わってくるのではないか。児童数が多い学校で学級の上限人数が減ると、学級ばかりが増えていってしまう。小規模校は、1学級15人程度が理想と考える。
- 議長 ある程度市の基準は決めなければならず、その兼ね合いはある。統一した意見として、国の基準の35人学級は多いのではないかということがあった。35人より少ない上限数を考えたときに、十数人という意見から30人という意見まで様々出てきたが、実人数として20人前後が望ましいという意見が多かった。実人数を20人前後にするためには、定員としては25人や30人が候補に上がってくる。出た意見を事務局でまとめていただき、それをこの会で協議させていただき形とする。その他について、児童数が減少していく中で、今後どの程度の状況になった時に再編や適正化を実施する必要があるか。例えば、複式学級が出てきた場合や、児童数が何人以下になった時に再編・統合をしていくのか、ご意見を頂戴したい。
- 委員 再編の時期は待たなしの状況なのではないか。再編はマッチングが重要である。現在は mismatch が起きている状況なのではないか。まず第一に考えなければならないのは、児童と教員である。これからの時代、多様性を受け入れる時代になってきている。どこの地域とも違う砺波型というものを色濃く出して進めていくのが面白いし、元気な市になると思う。教育は最も保護者の関心を集めるもので、そこを整えた市は魅力ある市に変わっていく。市や企業や地域の皆さんの考え方がそういった方向を向いたときに、財源も確保できてくるであろうし、多様性を受け入れる環境ができてくると思う。これだけ子供の数が減る中で、多様性を受け入れ、マッチングしていくためには、移動手段が重要。子供が学びたい環境にどう持って行くか。教員も同じで、小規模校では若手教員を育てる環境ができていくと聞いた。小規模校はベテランの教員を配置し、若手はある程度人数がいる学校で、教師が教師たるものを学べる環境が必要である。マッチングというところでいかに解決していくかが重要。これらを解決していくのはテクノロジーである。バス、タクシー等の移動手段を発展させたり、またデジタル機器を活用した学習を行ったりすることで、リアルとバーチャルを融合させながら、10年先、15年先に砺波型の新しい環境を整えることで、人が集まってくるような市になればよいと思う。
- 委員 中国の学校に視察に行った際、一人の教員が50人程の児童を見ており、教室も非常に狭く、授業にもならず、非常に大変そうであった。日本ではそのようなことにはならないが、子供一人一人に目が届くような範囲内でやっていくことが一番重要と感じる。マッチングについては、市の対応や、地域・保護者・教員への対応を勉強しながら進めていかなければならない。
- 議長 複式は避けた方が良く、複式になるような小規模校であれば統合を考えた方が良く考えられるがどうか。また、各学年1学級という学校について、再編の対象に含めていくか、地域性を尊重し複式学級にならない程度であれば維持していくのか、

その点はどうか。

委員 小学校は地域とのつながりが強く、特に砺波の学校は地域に支えていただいております、それを子供たちは肌で感じられる。そのことは、低学年、中学年と成長していく中で、非常に大きく働いていると感じる。複式学級は子供にストレスがかかる部分があり、子供同士の教え合いというメリットはあるものの、やはり避けた方がよい。単級であればぜひ学校を残し、中学校に上がる際にそれぞれ抱えている思いなどをリセットする機会をつくる。小さい世界から、中学校という大きい世界へ行き、新しい出会いや体験をするのが良いのではないかと。小さい頃は地域に見守られる実感を持つのが良い。

利賀村時代、利賀小学校は複式学級だったが、村が手出しをして教員を雇い、複式学級を解消していたことがあり、それはそれで良いと思った。

委員 15人で複式学級というのは厳しい線である。ギリギリのところまで複式学級を避け、単級として存続させてほしい。

議長 1学年の人数が1桁になると難しい部分が出てくるが、1学年1学級が保てるのであれば、小学校はできるだけ存続させるのが良いということでもまとめさせていただく。

次に中学校について検討する。中学校の望ましい学級数についてご意見をいただきたい。国の基準では、12学級から18学級が望ましいとされており、1学年4学級程度ということになる。

委員 国の基準では1学年4学級ということだったが、本市が仮に2学級を適正と決定した場合に、国からの補助の点で厳しい要素はあるか。

教育長 学級数についてはない。ただし、小規模校は教員の数が確保できないという面がある。例えば般若中学校は、美術科、音楽科、技術・家庭科等の教科で正規の教員が入らず、非常勤の教員が授業を行っている。場合によっては、庄川中学校のようにその教科の免許を持っていない教員が自分の専門外の教科を教えるという状況が、1学年2学級の学校では起こる。

委員 家族に中学1年生がいるが、一番の楽しみは席替えだという。また、クラス替えも非常に楽しみにしているようだ。このようなことから、少なくとも複数の学級があった方がよいと思う。ただし、地理的な面で大人数に遠距離の通学をさせるのは難しいため、それを考慮した上で複式学級を維持する方向がよい。

委員 中学校でも教育環境の問題がある。ある程度学級数がないと、教員が配置されない。特に技術・家庭科や音楽科等がそのような状況になる。特に技術科は、機械や工具を使用するが、教員が配置されない場合が多い。そうすると、教育環境の整備が継続してできない。週に何日か教員が来るとしても、子供が質問したいときに質問できる環境ではない。教員の働き方というよりも、子供がいつでも免許を持っている専門の教員に問うことができる環境を考えたときに、適正規模の学級数が必要と考える。

肌感覚としては、1学年3学級が良いと感じるが、国は4学級と示しているので、その方向で良いと思う。

議長 庄川中学校を視察に行った際に、1学年2学級ということで専門外の教員が指導をしていた。子供たちにとっての教育環境が整っていないといえる。

1学年3学級あれば各教科の教員がそろうという話が以前出ていたが、そう考えて問題ないか。

教育総務課長 問題ない。

- 委員 中学生は思春期まただ中であり、自分のことが自分で分からないというような時期である。それに伴い、人間関係がこじれる場合がある。1年間で学級のメンバーをシャッフルするので、人間関係の問題がある場合は距離を置き解決を図ることによって、ストレスを軽減し学習環境を整えることができる。1学年1学級ではこのようなことが全くできない。2学級であっても、最近はSNS等の問題もあり、複雑になりつつあるので難しく、3学級から4学級であるのが望ましい。
- 議長 3学級程度が最低の基準ということでよろしいか。
- 委員 その基準を達成できているのは、出町中と庄西中だけである。般若中と庄川中はどうするのかという問題がある。
- 委員 本市は地域の方が苦勞してこれまで学校をまとめてこられた経緯があり、数字の話だけで片付けられない現実がある。
- 議長 そうは言っても、現実問題難しい状態にある。
- 委員 複数学級が良いというのは間違いないが、通学距離や地域との結びつきの問題があり、複数学級でなくなったからといってすぐに統合ということにはできないということとしたい。
- 委員 次に中学校の学級人数について、ご意見をいただきたい。富山県の基準では、1年生は選択制で35人、2年生以上で40人となっているが、いかがか。
- 委員 般若中の生徒数を教えていただきたい。
- 教育総務課長 4月1日現在で、1年生が25人、2年生が32人、3年生が39人である。
- 委員 教員側の目線で、教員1名に対し何人程度が見やすいのか。
- 委員 過去に38人、42人といった学級をもったことがあるが、少ない方が良いのは明らか。今後子供同士の対話をより重視していくことになれば、35人学級で一人1分話すと35分もかかってしまうことを考慮すると、35人学級は多すぎる。ただ、学習形態による。体育科の場合は、20人でやるよりも40人でやった方がチームスポーツも実施しやすい。クラスを組み合わせることによって工夫は可能ではある。国の基準の35人学級というのは、30人程度は見たいというメッセージだと思っている。難しいが30人程度がよいのではないか。
- 委員 自分が般若中学校に通っていたとき、1学年3学級で、1学級は33人であった。今と比較するとSNS等もなく教育の方法も異なっているが、33人より少ない方が教員が生徒一人一人に気を配ることができて良いのではないか。人数は小学校ほど少ない必要はなく、25人程度がちょうど良いと感じる。
- 委員 目配りできるという点で、30人程度がよい。
- 議長 小学校よりは多くてよく、30人程度が良いということでよろしいか。40人は多いが、30～35人程度ならよい。
- 委員 中学校に関して、その他ご意見があれば伺いたい。
- 委員 義務教育学校の視察後、素晴らしいという意見も、あまり効果がないのではないかという意見もあった。砺波市で義務教育学校を導入すべきかどうかという点もご意見を伺いたい。国吉義務教育学校は、同じ敷地内に元々小学校と中学校があったためにスムーズに移行できたという面もある。
- 委員 学校によって、部活動の数が3倍ほど違う。中学生にとって、やりたい部活動があるというのは重要なこと。自分のやりたい部活動ができないということになると、身が入らないということが起こる。再編を考える中で、部活動についても一つのキーワードだと思う。
- 委員 文科省が部活動の地域移行を示しており、今後部活動は学校から離れていく流れにある。部活動を学校から離すという流れの中で、部活動を学校のあり方にくっつけ

て考えるのは裏腹な部分があり難しい。

<議事(2) 適正配置について>

議長 適正配置については、これまでの議論ですでに意見が出てきた。それをまとめて事務局に提言案を出してもらおうので構わないか。それとも議論を深めるため、7月の前にもう一度検討委員会を開催することとするか。

委員 資料をまとめていただいたうえで、年度が変わってから再度会議を開催すべきではないか。

議長 活発に意見を出していただいた方がありがたい。年度が変わってから、再度開催することとしたい。

教育長 <閉会あいさつ>

様々な視点から貴重なご意見を多く賜り、本当にありがとうございます。

小学校ではできれば2学級以上、中学校では3学級以上が良いというような目安が出てきました。そのような中で、地域性という言葉も出てきました。砺波市では早くから準備を進めており、すぐに学校のあり方が変わるということではありませんが、来たるべき時に備えて様々な視点を出していただくのは大変ありがたいことです。

複式学級という線もありました。複式学級の国の基準は16名です。富山県は、独自で1名少なくして15名という基準にしています。例えば3・4年生の複式学級の担任は、半分の時間で3年生の授業をし、もう半分の時間で4年生の授業をすることになります。利賀村で教員を雇った話がありましたが、基本は県費の教員が3・4年の担任になります。村で雇った教員を担任に充てることはできません。このように考えても、複式学級はなかなか難しく、皆さんのご意見のとおりだと思います。今後は、学級人数について具体的に何人が適正かという話になってきます。10人の学級の担任と40人の学級の担任の経験がありますが、40人ははっきり言って多いです。35人も多いと感じます。10人の学級は少なく、多様化の中でやりづらさがあります。したがって、皆さんのご意見のとおり数字が目安になってくると思われます。中学校の専門外の教科指導等があり、先生方が苦勞している事実はありますが、庄川中学校も般若中学校もしっかりと運営していただいております。今すぐに再編・統合という話ではありません。

今後皆様から様々な視点でご意見を賜りますようお願いして、閉会のご挨拶とさせていただきます。